



Par Laurent van Hille/les Choucas de Mieussy.
Photos Windtech.



WINDTECH **BALI**

Pour découvrir de nouveaux horizons

Avec cette Bali, de niveau
B sport, Windtech

美しいデザインの翼は整備性も良く、良いところばかりだ。特にクリーンなラインどりはライン総長を減らしている。

Testing Paragliding + 448

By Laurent van Hille / the Choucas de Mieussy. Photos Windtech.

フランスのパラパント誌のテストレポート。ヨーロッパコミュニティも、徐々にノーススペインからの最高の ENB グライダーを認識し始めました。 2016.7

Windtech Bali 新たな地平を拓く

Bクラスのスポーツ機である、このバリによって、ウインドテック社は高性能で扱いやすい入念なつくりの美しい翼を世に出した。素晴らしい設計技術である・・・

ウインドテック社の紹介

ウインドテック社は 1995 年から 21 年間にわたって活動しているブランドであり、特筆すべきは、創設時から全く同じチームメンバーで運営されているということだ。その経営・企画はガブリエル・カナダが行い、アルバロ・バルデスが設計を担当している。若き経営者ガブリエルは、完璧なフランス語を操り、そしてまた素晴らしいパイロットでもある。本大会の優勝争いでも、前回まで 2 度のスペイン選手権を制したホセ・ラモン・サンツや同じく 4 度の選手権制

覇を成し遂げたボルハ・ロドリゲスと戦っている。

このブランドは世界中に行き渡っていて、パラグライダー界で広く受け入れられていたが、最近はその中でもなく、他の多くのブランドのような効果的なキーポイントに欠けていた。しかし翼の出来は良く、特に内部構造の入念な作りは素晴らしく、これはデザイナーであるアルバロ・バルテスの個性でもある。バリにおいてもこの美しい設計手腕を見ることが出来る！

さらに付け加えるならば、チーム全体がとてもフレンドリーであることが挙げられる・・・そして彼らの活動するのは、巨大なピコス・デ・エウロパ連山から 20 km の大西洋に面したスペイン北岸の美しい街ジジョンのアストゥリアスだ。彼らのエリアは訪れるのに値するもので、彼らの飛び回る美しい映像とともに、Aクラスのインターミディエイト機ハニー2やタンデム機ルーバイ、さらにアエロバティック機のルーブ2といった新鋭機でおなじみの場所だ。

抵抗削減を追求したデザイン

これこそこの翼の特徴であり、この翼を見たものは皆、そのライン数の少なさに気づくだろう。スタビライザーを含んでもわずか 7 本のボトムラインの3本ライザー機だ。ボトムラインの上に来る2段のアップーラインは被覆が無いそのライン配置は見事である。

キャリアーリブの前縁と、Cライン列から後縁に至る翼上面にバテンが入っている。そしてこれらのバテンはキャノピーをたたむ際に何の問題も起こさない。

さらに加えてほぼ全スパンにわたる入念なテンションバンドの配置がある。これらのおかげでバリはあらゆる条件においてゆるぎないコンパクトな翼となっている。

使用されている生地は、上面も下面もかたいスカイテックス 38 である・・・やや重くなるがバリに乗るときの安心感が違ってくる。軽さ重視のパイロットには、超軽量バージョンのバリエイがある。写真を参照。

ブレークラインは摩擦の少ないリングを通りとても軽い。ブレークの配置も良く効きが良い。



写真 (左)
美しい内部構造による、とてもクリーンなラインどりが、性能に寄与している。

また、Bクラスの本当にスポーティーなスポーツ機が、市場には少ないことにも注目。

写真 (右)
バリエイはバリの軽量バージョン。3サイズが用意され、24サイズで重量はわずか 3.8 kg。



第一印象

バリは A クラス機からの乗り換えでは、立ち上げの初動に少し力を使うだろう。次に注意しなければならないのは、左右非対称に立ち上がってこないかだ。ときどき頭上で止めるタイミングも必要になる。スクールを卒業するパイロット向けではないが、もう少し経験を積んだ一般パイロットにとって難しいものは何もない。

飛んでみるとすぐ 2 つの特性に気付く。まず速度が速いこと。そしてブレークの効きがとても良いことだ。

試乗機ではブレークの遊びは 7cm でやや長いと感じた。もう少し短くした方がダイレクトな操舵感が得られる。失速までのブレークのレンジは 67cm だった。目いっぱい引いていくと、一度だけだがディープストールに入ったが、A ラインをちょっと引いてやるとすぐに回復した。

失速の初動はとても緩やかだがはっきりしたものだ。挙動は抑えられていてパイロットの反応がずれていても激しいシューティングにはならない。

B ストールからの回復でディープストールが続くこともない。

性能は…素晴らしい！

性能は画期的で、ニュートラル 39 km/h、アクセレーターの 1 段目で 44 km/h、最大に踏み込んで 50 km/h だった。失速は 24~25 km/h と通常だ。

最近の B クラス機は高性能だが、バリは 42 km/h で滑空比 9.67 とさらに上を行っている。39 km/h で 9.37 とわずかに下がり、アクセレーター 1 段目の 44 km/h でも 9.3 ある。全く驚きであり、素晴らしい。さらに高速での沈下率も良く、トップスピードの 50 km/h で 1.85m/s、滑空比にして 7.44 とこれもこのカテゴリーでは、全く素晴らしい。



クロスカントリー

バリはクロスカントリーに威力を発揮する。その練習にも良いだろう。性能とパッシブセーフティの妥協点を高次元に実現している。このクラスには多くのライバル機があるが、バリはスペインにおけるスポーツあるいはクラブクラスの大会においてその性能の高さを実証している。(スペイン全国スポーツ大会シリーズで多くの優勝)サーマリングでは、ブレーク操作だけでとてもうまく回れる。もちろん、体重移動も旋回の調整に役立つがパイロットにとっては楽な特性だ。逆に体重移動を多用するパイロットは最初、戸惑うかもしれない。ブレークの効きが何にしろ良いので、サーマルに切れ込む際も少し余計に引くだけですぐ入ってくれる。一方で、細かな外側の押さえ操作も、旋回の調整に必要である。それでもなおサーマリング性能は素晴らしく、いろいろなサーマルに対して高い上昇率を示す。

また、翼からのフィードバックもとても良く、サーマルの位置や強い部分がわかりやすい。これは私にとってとても評価が高い点であり、久々に飛ぶパイロットもすぐに勘を取り戻せるだろう。また、これから翼からの情報の受け取り方に慣れていこうというパイロットにとっても、習いやすい機体だ。

そしてサーマル間のグライドもバリのもう一つの強みだ。まずその素晴らしい滑空性能があり、そして乱気流に対してキャノピーの挙動が安定していて頭上にとどまってくれ、押し返されることがない。ピッチングの制御も楽だ。



写真 (左) B ストールのテストでも、頑丈なつくりのバリは形状が保たれている。
写真 (右) ライザーは効果的なつくりだ。

結論

ウインドテックは、バリで、上を目指す B クラス機パイロットや、C クラス機から性能を落とさずに楽をしたいパイロットの心をつかんだ。サーマリングや距離飛行において素晴らしい性能と安全性の融合を見せるバリは、クロスカントリーや競技を始めるパイロット、あるいは楽で高性能な機体を求める経験者には見逃せないだろう。

お勧めしたいパイロット

順調に上達していて頻繁に飛んでおり、クロスカントリーや競技を始めようというパイロット。あるいは、楽で安全性が高く最高レベルの性能を求める経験者。